

珍しい交響曲 フィンランド Minor Symphonies Finland

作曲家		生没年	交響曲の数	曲名	評価 ★★★★★:ぜひ聞いて欲しい ☆☆☆☆:聞く価値はある ※※:どちらとも言えない ×:聞く価値なし	コメント	○の曲のスコアは保有しています。	CD番号	レーベル
Erkki Gustaf Melartin	メラルティン	1875-1939	6	交響曲第1番(1902)	※※	同時代の北欧の作曲家の作品に比べて印象が薄い。		ODE931-2 交響曲全集	ONDINE
				交響曲第2番(1904)	※※	同時代の北欧の作曲家の作品に比べて印象が薄い。			
				交響曲第3番(1907)	☆☆☆☆	金管楽器が多用され、第3楽章ではコーラル風の旋律が盛大に鳴るなど、だいぶ大衆向けになっています。			
				交響曲第4番(1912)	☆☆☆☆	第3番と同様に聞きやすい曲です。第3楽章には女声の歌が入りますが、特に効果的ではありません。第4楽章の最後はまたコーラルです。			
				交響曲第5番(1916)	☆☆☆☆	聞き映えのする部分が多くあります。第1, 2楽章に登場する民謡の旋律はリャプーノフの”ウクライナ民謡による狂詩曲”に用いられたものと同じ? 第4楽章はフーガです。			
				交響曲第6番(1925)	※※	とりとめのない印象です。			
Kalevi Aho	アホ	1949-	15	交響曲第5番(1976)	※※	4つの部分から成る単一楽章で24分。オーケストラは良く鳴りますが、面白味には欠けます。		BISSA2336	Bis